

第1話 科学の聖地‘ギリシア’へ

●本誌10月号でギリシアへの旅のことに触れた。

‘ハルプーザの会’「アレキサンダーの生地とヘロドトスの世界」と銘打つ科学の聖地への旅を率いたのは、本欄にも度々登場するシルクロード研究者の古曳正夫氏である。ギリシアという呼称だが、旅の途中日本語版ガイド本「ギリシア歴史・民芸・ルート」を購入したところ、参加者の前田耕作氏から、最近学会ではギリシアではなくギリシア表記が一般的であるとお聞きした。前田耕作氏はアジア文化史・思想史がご専門で、バーミヤン遺跡の保存・修復事業にも参加されている。帰国後、改めてお聞きしたら、学会で表記を統一したわけではないが専門家は誰でもギリシアと表記する、ペルシアも同様である、『ギリシア・ラテン引用語辞典』(岩波書店)の田中秀央先生は強くギリシアであることを説かれたこと等をご説明いただいた。

●なぜギリシアでなければならないのか?

更に前田先生は、「ギリシアという呼称は、ラテン語のGraecia(グラエキア)からきたもので、ローマ人が交通したGraecoi(グライコイ=ギリシア人)の国を指すものだった。ギリシア人たちは自分の国をヘラスと呼んでいた。ギリシアはグラエキアの日本語読みだが、ラテン原語に近づけて読めば、グリキアか、

グリシアか、ギリシアであって、シャにはならない。またギリシア語の子音にはthはあってもshはない等等」と説明された。「三省堂 英和辞典」ではGreeceをギリシアとし、「ランダムハウス 英和大辞典」でもGreekをギリシアとする。

●古曳団長からもコメントをいただいた。

ペルシアは自国をファールスと呼んでいたが、ギリシア人はfaをpaとしか発音できずに相手国をペルシアと呼んだ。また、ギリシアは自国をヘラスと呼んでいたが、ペルシア人がheをgeとしか発音できずに相手国をギリシアと呼んだ。日本が国際的にジャパンと呼ばれるように、ギリシアもペルシアもそれぞれ相手の呼ぶ名前が国際名称に取り入れられてしまったと説明された。faをpaとしか発音できないと聞いて思い起こすのは、日本語自体が平安のfa音、江戸のpa音、現代のha音と辿ってきた発音変化の系譜である。例えば、織物の機(ハタ)は平安時代ファタであり、江戸時代パタであり、現代がハタである。平安時代の日本人はペルシアをファールスと正確に呼んだはずである。逆にギリシアにもかつてpaをfaと発音する時期があったのではないかと考えた。そうした日本語との共通点を持つギリシア語だが、日本語の起源とも言われる南インドのタミール語との接点はあるのだろうか?

●ギリシアにはイスタンブールからバスで入国した。

だが一旦、トルコ側の出入国管理事務所(入管)を通過した後、ギリシア側入管手前で立ち往生した。EU全域の入管のパスポート検閲用のシステムダウンが原因である。トルコはEUに加盟していないため通過できたが、システム復帰まで更に6時間要するというのでやむなくトルコに引き返し時間をつぶした。6時間後、何とかギリシアに入国したがハプニングはまだ続いた。ギリシア南部で大規模な山火事が発生しているという。(続く)



修復中のオリンピア神殿(アテネ)

◎編集後記

ユニクロとコンビニのam/pmが、CO₂排出量を減らせるレジ袋を導入するという記事がありました。なんでも環境ベンチャーが開発したという特殊な添加剤を混ぜることにより、薄くても強度を保てるため、ポリエチレンの使用量を削減できるのだそうです。「環境のことをちゃんと考え実践している会社」がブランドイメージになる今の時代。大差で勝利しオーストラリアの次期首相とされるケビン・ラッド氏も、これまでの政権が拒否した京都議定書を批准する姿勢をとり、気候変動問題の取組みに意欲を見せています。まさに「エコ・ブランド」で民衆(消費者)の心を掴み取ったのでしょうか!?(長)

◎編集部からのお願い

NTSニュースでは読者の皆様からのお便りや投稿をお待ちしております。また、開催予定の勉強会・イベント等、掲載をご希望される方は下記宛までご連絡ください。

〒113-0034 東京都文京区湯島2-16-16 (株)エヌ・ディー・エス「NTSニュース」係
FAX: 03-3814-9152 E-mail: eigyo@nts-book.co.jp

NTSニュース

2007年12月号(通巻106号)
2007年12月5日発行